

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 54

2025年6月8日（土）発行

発行責任者: 草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所: 〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

17年間白梅学園大学に勤務して思うこと

白梅学園大学 子ども学部教育学科 元教授

増田 修治

白梅学園大学には、50歳から67歳までの17年間勤務しました。初めて大学に勤務した2008年には、短期大学から分離して4年生大学が設立された4年目でした。初めての卒業生を出すという時に、大学の准教授になったのです。それは同時に、小学校教員免許を取得するための教育実習が、初めて実施される年だったのです。

実際に、4月に実習の用意に関わった時に、実習指導は受けていないし、実習先も決まっていなかった状況でした。そのため、毎日10時近くまで、実習センターの方と一緒に書類を準備し、同時に実習指導を集中的に行うことになりました。

大変でしたが、なんとか実習に行かせることができ、小学校教員として勤務する学生を育てることが出来た時には、感無量でした。大学教員は、そうした形で始まったのです。それまでは、28年間小学校教員をしていましたから、小学校教員に戻りたいと何度も思ったものでした。

しかし、一生懸命小学校教員になろうと努力する学生の姿を見て、励まされました。時には厳しい要求をして

しまうこともありましたが、学ぼうと努力する姿はとても素晴らしいと感じることがありました。

そうした中で、結局定年までの17年間、白梅学園大学に勤務できたことは、良かったと思いましたが、同時に、たくさんの研究が出来たことも自分にとってプラスになったと感じています。また、大学が地域に根ざす必要性を感じることができたのが、小平西地区の活動でした。自分自身、小平西地区の活動にはあまり関わられませんが、こうした活動が大学を支えているのだとも思えました。

地区の活動の中で一番心に残っているのは、学生が授業で作った「こだいら平和美術展」に畳4枚の大きさの版画を掲示できたことでした。平和と持続可能な社会の形成に少しでも寄与でき、地域に少しでも貢献できたとするなら、とても嬉しいことでした。大学教員としての17年間は、様々な挑戦が出来た時間だったのではないかと、今振り返って思っています。

小平西地区地域ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？



「分かった会」修了式、開催！

奈良 勝行

3月13日(金)午後7時から恒例の修了式を開きました。修了生5人のうち4人、保護者4人、1・2年生6人、講師7人が参加しました。

開会の辞のあと、西ネットの代表・草野先生がお祝いの言葉を述べました。「皆さんは、とても若い10代、今後の人生においていろいろな困難、失敗に出会うでしょう。でもそんなものにはめげずに頑張ってください。今日は私の70代の手習いであるピアノの伴奏で「エーデルワイス」を合唱しましょう、がんばってね！」と挨拶。修了証書を4人に授与しました。分かった会の代表・奈良があいさつ。「分かった会で最後までよく頑張りました。高校に入っても一所懸命勉強してください。今後、たま

には「分かった会」の例会に顔を出して、後輩を励ましてくださいね！」。

その後、修了生一人ひとりが感想と抱負を述べ、講師も一人ひとり激励の言葉を述べました。修了生の一人：「勉強会では先生方が丁寧に教えてくださいました。勉強に自信ができました。これからも頑張ります。ありがとうございました！」

エーデルワイスの合唱：この曲を草野先生の素晴らしい伴奏で歌いあげました。「70代の手習い」とはいえない技で会場を圧しました。歌う方は英語バージョンで声は少し小さかったが、こんな演出は修了式で初めて。草野先生、すごい！どうもありがとうございました！

あそぼうかいを開催しました

佐々木優莉(白梅学園大学発達臨床学科3年)



2025年5月17日に、あそぼうかいを開催しました。「たんけんに行こう！季節どうぶつえんへ！」と題して、四季を感じることができる動物園を今年の春に入学をした1年生と共に2～4年生もこれまでの経験を活かしながら一体となって準備をしました。当日には雨が降っている中、昨年度よりも多くの方にお越しいただき、楽しい時間を参加者の皆さんと過ごすことができました。

あそぼうかいでは5つのコーナーが展開されています。今回の各コーナーの様子をご紹介します。参加者の方に一番最初に関わる「うけつけコーナー」。ひよこ、にわとりなどの動物のデザインの名札から1つ選んでいただき、どうぶつの顔を書くことができるコーナーを設けました。また壁にはすずらんテープに花紙で作った桜を垂らして、視覚的にも春の暖かさを感じられる工夫をしました。「あそびコーナー」では、体を動かすことができる遊びを楽しみました。中でもボール運びは小さなお子様から保護者の方まで一緒に楽しめる他にも宝探しと絵合わせを交えた遊びやポッチャを行いました。海や山を想像させる遊ぶ道具の装飾は夏らしさを感じられました。

「せいさくコーナー」では、オリジナルの動物の耳と双眼鏡を作ることができるコーナーにしました。テーマに合わせて、動物になりきることや探すことを楽しめるような制作をしました。壁には渡月橋の周りにある手形の紅葉や銀杏で彩られました。

「ホットスペース」では、ゆったりできるミニコーナーが沢



山ありました。一番人気だったのは絵本のコーナーでした。他にも塗り絵の座りながら遊べる企画にしました。壁にはペンギンや雪だるまのうさぎなど、冬らしい景色が広がっていました。

あそぼうかい締めくり。「おわりのつどい」では、「おうちジャングル」の紙人形劇を行いました。3組の発表グループがそれぞれ楽しんでいただけるように、声の大きさ



や紙人形の動かし方を工夫していました。リラックスした状態で楽しんでいただきました。

帰る際には笑顔で学生に手を振ったり、制作したものを身につけて帰られる姿が見られました。その姿を見た私達学生にとっても楽しいあそぼうかいとなりました。また次回も、参加者の方々に楽しかったと思ってもらえるあそぼうかいにしたいです。

ワチャワチャボッチャサークルの紹介

鈴木賢次

令和2年2月のコロナ禍の中でサークルを立ち上げました。小川西町公民館の講座終了と共に立ち上げました。地域住民の居場所、多様性を認め合う皆さんと結成をし、既に5年目になりました。その間には小平市ボッチャ協会を立ち上げました。さらに小平市スポーツ協会への加入も叶いました。障がい者スポーツが市のスポーツ協会に加入した例は近郊の市ではありません。

ボッチャは多様性&共生(ダイバシティー&インクルージョン)を実践できます。会員の皆さんとボッチャをさらに広め、進めていきたいです。だれもがワチャワチャ言いながらフランクにボッチャを楽しんでいくサークルです。市立13小学校の放課後ボッチャ教室ではボッチャを教えています。楽しんでいるばかりではありません。2024年には小平市の推薦を得て、東京都市町村ボッチャ大会に参加が出来ました。決勝トーナメントに進出しましたが残念ながら、1回戦で敗退をしました。下記写真が参加メンバーです。更に精進をし、楽しく強いボッチャサークルにしていきたいと思います。こんなサークルです。皆さん

ワチャワチャボッチャサークルに入会しませんか。楽しいですよ。ホール通路の壁にサークル紹介をしています。参照ください。加入を募ります。(「ささやき」より転載)町田市体育館で撮影(障がい者を含むチームが唯一決勝トーナメントに進出しました)



2025年度第1回コミュニティカフェ開催報告

白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科教員 森山千賀子



5月21日(水)11時~12時の時間帯で、今年度第1回目の世代間交流コミュニティカフェが開催されました。当日は、地域のシニアの方々、認知症高齢者グループホーム、デイサービス等のご利用者

と職員の方々、圏域の2か所の地域包括支援センターの方々など、20数名の方々に参加してください、学生を含めて30名を超えました。



この4月から世代間交流の授業を履修した学生にとっては初めての企画・運営で、会場準備がままならない中で右往左往することもありました。一方で、5月であるため「鯉のぼりの札づくり」など、ご参加の皆様のご協力とテーブルを囲んでの懇談やゲームなどで、初めて顔を

合わせる参加者同士の交流も図られ、「楽しかった」というお言葉を頂いたことは何より嬉しいことです。コミュニティカフェの終了後は、2か所のグループホームのご利用者職員(職員の中には卒業生もおり)と数名の学生が、生協食堂で食事をとりながら歓談し、お見送りをしながら三々五々お帰りになりました。学生にとっては大変貴重な学びになったと思います。

次回は7月2日(水)の11時からで、その後は11月頃の開催を予定しております。どうぞ引き続きご参集頂き、ひと時をご一緒にお過ごし頂けますと幸いです。

2025 SCHEDULE		
8/2	SAT	小平グリーンロード灯りまつり 小平市立中央公園、他
9/28	SUN	お庭市 鷹の台駅前商店街
10/18	SAT	津田塾祭
10/19	SUN	津田塾大学
10/18	SAT	白梅祭
10/19	SUN	白梅学園大学
10/24	FRI	芸術祭
10/26	SUN	武蔵野美術大学
10/26	SUN	鷹の台森の市場 上水公園
12/7	SUN	お庭市 鷹の台駅前商店街

第48回「ゆー&あいうえすと」が開かれました

地域包括支援2層協議会

5月27日(火)14時から小川1丁目地域センターにて第48回「ゆー&あいうえすと」が開催されました。「ゆー&あいうえすと」は「小平市生活支援体制整備事業」(以下「事業」)高齢者の日常生活の支援体制の充実と

社会参加を促進するために、小平市内の日常生活圏域ごとに生活支援コーディネーターと協議会を配置して、地域住民の「互助」を介護保険に基づいて行政として支えていくシステムです。

はじめに第1層の協議会が設置され、少し遅れて第2層の協議会が発足しています。第2層協議会は小平市内に5つの圏域(西圏域、中央西圏域、中央圏域、中央東圏域、東圏域)がありますが、その圏域ごとに作られています。「ゆー&あいうえすと」は小平市の西圏域の2層協議会で、けやきの郷が担当し、ほぼ月に1回の割合で開かれています。「ゆー&あいうえすと」のある西圏域は、西ネットの地域と重なります。なお小川西町地域は中央西圏域として小川ホームが担当しています。

48回「ゆー&あいうえすと」では、年度初めということで新しい委員を含めて自己紹介があり、見守りボランティア、民生委員、介護予防リーダー、ポッチャサークル代表、地域住民、西ネット代表などが参加しています。他に主催者である地域包括支援センターの生活支援コーディネーターの中川さん、古屋さんや西圏域担当のコミュニティーソーシャルワーカー(CSW)の鈴木さんも参加しています。

議題としては、2025(令和7)年度の「ゆー&あいうえすと」の活動について、日程やメンバーなどが確認されました。会議は原則として第4火曜日の午後で開催されます。また4月22日に開催された「あるいて うたって 春をたのしもう」のイベントの振り返りを行いました。すたふっと参加者合わせて44名が中島町にある足湯に参加しながら交流を楽しんだ様子が感想にもたくさん寄せられています。秋にもこのような取り組みをする予定です。

その他この協議会からスタートした2つのポッチャサークルの様子が報告され、小平市のポッチャ大会に参加して楽しんだ様子が紹介されました。最後に情報提供が行われ、特に6月24日(火)14時から予定されている「地域活動交流会」(黎明ホール:特別養護老人ホーム「やすらぎの園」4階)が期待されています。

第55回西ネット懇談会

「スクールソーシャルワーカーと外国籍児童」の報告

西ネット第55回地域懇談会は、3月8日(土)午後3時より、白梅学園大学にて開催されました。講師は小平第2中学区のスクールソーシャルワーカーの堀江さんです。そもそも「スクールソーシャルワーカー(SSW)」とは何かから丁寧な説明があり、昔の学校と違って子どもたちの生活や家庭に寄り添って学校の中で活動をしています。



堀江さんの説明によれば、SSWは平成20年度(2008年度)文部科学省によるSSW活用事業の開始からはじまっています。事業趣旨として、いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などの課題が増加したこと、課題の背景には、心の問題と共に児童生徒が置かれた環境(家庭、友人関係、地域、学校等)の問題が考えられること、そして課題の解決には、環境への働きかけや関係機関との連携の強化が必要であること、環境に働きかけたり関係機関とのネットワークを構築するためにソーシャル

ワーカーを活用し、課題解決を図るということでした。スタートしてから17年、多くの学校でSSWが配置されるようになり、小平市ではすべての小学校と中学校にSSWが配置されています。ただし毎日同じ学校ということではなく、一人がいくつかの学校を担当しているのが小平の現状です。

SSWの職務内容としては以下の通りです。問題を抱える児童生徒がおかれた環境への働きかけ、面接、訪問等情報収集、アセスメント(見立て)、支援計画作成、情報提供、関係の調整等があります。また関係機関等とのネットワークの構築・連携・調整、学校内におけるチーム体制の構築・相談・支援、保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供、教職員等への研修活動等となっています(平成20年度文部科学省によるSSW活用事業より)。

SSWの対応事例としては、不登校、いじめ、非行、暴力行為、学級崩壊、対人トラブル、虐待、貧困、ヤングケアラー、保護者の疾患、家庭問題、保護者の養育、メンタルヘルス、セクシュアルマイノリティ、ストレス・トラウマ、自死、自傷行為、ゲーム・ネット依存、特別支援教育、学力不振、外国籍・帰国子女等(令和5年度文部科学省委託調査「スクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究報告書 令和6年3月より」極めて多岐にわたります)。

外国籍児童に関わっては全国で2023(令和5)年度小学生が106,540人、中学生が44,155人、合計で15

0,695人で前の年より13,772人増えています。小平市では小学生と中学生合わせて220人いますが、「日本語指導が必要な外国籍の児童生徒」24人ということで1割強となっています。

外国籍児童生徒の学校での支援内容としては、①生徒の状況に応じ、日本語取り出し授業(在籍学級以外の教室で行う個別の指導、日本語の講師派遣週2回上限96時間/年)、②提出物や定期試験での配慮の検討(英語での提出物等)、③生徒の状況に応じ、授業支援

員の設置、④放課後学習教室で日本語や教科の勉強、おしゃべり、⑤宗教に応じた給食(鶏肉と牛乳を飲まない日、ラマダンへの配慮等)などとなっています。

堀江さんは高校の入学情報などについても報告しました。中学校に入学してくる外国籍の子どもたちは、3年生になると高校入試を受けなければなりません、日本語のハードルなどがあり、受験そのものが限られてしまいます。堀江さんは夜の日本語支援サークルにも参加しています。

「白梅ヤングケアラープロジェクト」イベントを開催しました

白梅学園大学 子ども学部

家族・地域支援学科 午頭潤子

2025年3月24日、自己発見イベント&くじ引き大会(会場:白梅学園)と、3/25(火)ビーチバレーand BBQをしながら食べて話して遊ぼう!(会場:立川タチヒビーチ)を開催しました。(主催:白梅学園大学・白梅学園短期大学



ヤングケアラープロジェクト外代表:森山千賀子(子ども学研究所 特定課題研究 2022~2024年度)& NPO 介護者サポートネットワークセンター・アラジン)

3月24日は、同日に開催されたフードパントリーに参加した学生や、清修一貫校の生徒の参加もあり、ヤングケアラー啓発動画として、昨年度白梅ヤングケアラープロジェクトも撮影協力をおこなった「ヤングケアラーのひろば」スペシャルムービー:ヤングケアラーの実体験『ヤングケアラー ~さまざまな視点から描く一人の女の子のドキュメンタリー~』を視聴しました。

食料景品が当たるくじ引き大会もあり、多くの参加者とヤングケアラーの理解を深めました。当日は、自治体

や市内や近隣市の地域包括支援センターからの視察もありました。

3月25日は、立川タチヒビーチを会場に、ビーチバレー



and BBQ をしながら食べて話して遊ぼう!を開催し、大学生を中心に高校生、小学生、社会人の総勢20名が参加しました。これまでケア

からは、BBQに初めて参加することができたことや、野菜を切りながら、家庭で行う家事や介護の話、きょうだいや親の話など自然と会話ができる環境がありました。

ヤングケアラーは、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と定義され、学業や生活への影響が懸念されております。私たち白梅学園は、2025年度も、ヤングケアラーサロンと電話相談をしていきます。是非ご興味をもっていただけました、幸いです。地域の社会課題を共に考える共生社会を目指して、今後も活動を続けて参ります。

コミュニティスクール(学校経営協議会)

知っていますか 瀧口優

国においては2000年ごろから、地域が運営に参画する新しいタイプの公立学校の設置が提言されました。そして2005年には全国で17校がコミュニティ・スクールを

指定され、スタートしています。2013年の第2期教育振興基本計画ではコミュニティ・スクールを全公立小中学校の1割に拡大することが盛り込まれました。

2017年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正」によって、学校運営協議会の設置(コミュニティ・スクールの導入)を教育委員会の努力義務とすることが決まりました。2018年からの「第3期教育振興基本計画」では、学校運営協議会制度を全ての公立学校に導入することを目指すとなりました。2024年度現在、全国の公立小学校及び中学校の半数以上に協議会が設置されています。

小平市では早くから小平第六小学校がコミュニティスクールを導入し、2025年現在、すべての小学校と中学校に学校運営協議会(小平市は学校経営協議会)が作られています。

コミュニティスクールとは？

コミュニティスクールというカタカナの名前からして、欧米からの取り入れですが、学校が地域と共に子どもたちの成長を支えていくことを目的に、地域の力を組織することを目的としています。欧米では学校の運営や人事などもコミュニティスクールが決めているところもありますが、日本のコミュニティスクールは主な役割として、(1)学校運営に関する基本的方針を承認する、(2)運営に関して意見を述べることができる、(3)教職員の採用・任用に関して意見を述べるができる、ということで少し学校中心の協議会になっています。それでも「学校運営

の基本方針を承認する」とありますので、CS会議の承認なく前に進むことができない原則になっています。

CS 会議のメンバーは、校長先生の推薦で教育委員会が、地域の大人10人から15人程度に委嘱しています。任期は原則1年です。年に5回程度のCS会議が開催されますが、公開授業などの日に設定されたりして集まりやすくしています。学校からは日頃の子どもたちの様子や、学校が行っていることなどについて説明があり、それに対してCS委員は様々な質問をします。

つづく協議では今後の方向について意見交換が行われ、学校の課題となっている不登校の問題や行事の在り方について意見が出されます。学校としてはこうして出された意見を参考に学校の運営を進めていきます。

私の関わっている学校のCS会議では「非認知能力」が話題になっています。「認知能力」というと主に学力を指しますが、「非認知能力」は「生きる力」とか「人間力」を指します。どうやってこの「非認知能力」をつけていくのかを今後CS会議として追及することになっています。

コミュニティスクールは子どもたちを地域ぐるみで育てるという願いが込められていますが、同時に地域が子どもたちによって支えられるという作用もあります。どうしたら地域が子どもたちによって支えられるのか、それも一緒に考えたいものです。

5月の歌

金田利子

- ◆ 幼子は小さな科学者・哲学者 センスオブワンダー育つ五月に
- ◆ 外に出て虫はいますか？ 緑草は？ 多様な住民こぞり点検
- ◆ 放射能空から降ってきませんか？ 危険性ある原発は“NO”
- ◆ 青い空そのまま子らにと「子どもの日」大人の決意手繋ぎ「五月」

ようこそ！小平市西地区の地域ネットワークづくりのページへ

「お互いの顔が見える地域づくり」のために「大学ができることはなにか？」地域の皆さんと共に探っていきます。地域のみなさん、学生、教職員の積極的な参加をお待ちしています。

小平市西地区の地域ネットワークづくり(白梅学園大学・白梅学園短期大学)

◇小平西地区地域ネットワークで検索して頂ければ、小平西地区の地域ネットワークづくりのページをみることができます。

『小平西のきすな』の第1号からご覧になれます。よろしければ、覗いてみてください。

皆さん、コミュニティサロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております!

① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)

② ほっとスペース第二きよか

毎月第1月曜 13:30~15:30 参加費 200円 (移転先: 小平市小川町 1-755-2-106) 問合せ: 瀧口優 TEL: 080-3450-6878

*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

*第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、7月7日、8月4日、9月1日、10月6日) 13時30分~15時30分です。

③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30~15:30 中島地域センター 参加費 100円

④ 「分かった会」小中無科学習教室

毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館) 問合せ: 奈良 勝行 (講師募集中!) TEL:090-4435-4306

9月からは火曜日も中学校3年生用として開室しています。

イベントの予定

- ・06月29日(日) 10時~ おがわん(小川ホーム)
- ・07月06日(日) 10時~ だれでも食堂ゆらり(小川西公民館)
- ・07月27日(日) 10時~ おがわん(小川ホーム)

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 06月24日(火) 18時~
- 地域世話人会: 07月13日(火) 18時~
- 大学世話人会: 07月22日(火) 18時~
- 地域懇談会: 09月30日(火) 18時~

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠 細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

西ネットの世話人を募集しています。瀧口まで連絡してください。(takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp)

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で54号を迎えます。西ネットのスタートから13年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。